

令和 2 事業年度の業務実績に関する
評価委員会における提言

【素案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学に係る令和2事業年度の法人の業務実績に対する評価及び指摘事項等について、和歌山県及び公立大学法人和歌山県立医科大学に対する各委員の提言を、下記のとおり取りまとめた。

記

【教育】

- 研究の活性化については、大学院の活性化が必要である。特に若手医師が魅力を感じる場所が少ないなど、大学院プログラムの内容を根本的に分析する必要があると考える。

具体的には、以下①～④のとおり

- ① 研究専念の期間がどの程度確保できているか。
- ② 教室の研究費は十分であるか。
- ③ 基礎系教室の研究のアクティビティはどの程度であるか。
- ④ 専門医の取得と大学院のプログラムをどのように両立させるか。

以上を踏まえ、大学院の活性化について、具体的な対応策を検討されたい。

- 薬学部第1期生の入学者に関して、県外からの入学者が多いため、県内からの入学者の増加が望まれる。卒業後のキャリアパス、特に県内におけるキャリアパスについて、どのようなビジョンを示しPRできるかを検討されたい。

【研究】

- 「組織横断型特定研究助成プロジェクト」として、講座の枠を超えた研究を支援するため助成を行っている。このような研究を活性化するため、特定の組織横断型研究を「〇〇疾患解明センター」等、センター化（組織化）する取り組みも有効と思われるため検討されたい。

- URA組織ビジョンを令和元年度に策定し、令和2年度は翌年度から組織を立ち上げるべく検討してきたが、策定時との環境の変化（次世代医療研究センターの整備、薬学部開学等）もあり、令和3年度に改めて

実効性の高い体制を構築することとなり、体制整備が遅れている。他大学の先行事例を参考に、体制の整備に取り組むことを検討されたい。

【国際化】

- 世界的な新型コロナウイルス感染拡大による影響があっても、リモート等により、国際化及び国際交流の推進ができる「with コロナ」の時代に適した取り組みを創り出していくことを検討されたい。

【地域貢献】

- 臨床研究セミナー並びに研究者向けセミナーについては、新型コロナウイルス感染終息後も e-ラーニングを続け、より一層積極的に利活用することを検討されたい。

【業務運営】

- 医師の働き方改革について、令和6年（2024年）4月から医師に対する時間外労働の上限規制の適用が開始される。勤務実態の把握に取り組み、勤務体制の見直しなどを検討されたい。